

性善説と性悪説の違い

観 点 性善説（孟子）

性悪説（荀子）

人の本性

善

悪（利己的）

悪の原因 環境・教育の不足

本性そのもの

重 視 良い環境づくり

規律・法・教育

ポイント 信頼、裁量を与える管理。

監視を厚くする

自己管理に任せる

権限分散

◎性善説（孟子）「四端説」とは、人間の心には生まれつき「惻隠」「羞悪」「辞讓」「是非」の4つの端緒（たんしよ手がかり、

ヒント）を持つており、これらを成長させることによって「仁」「義」「礼」「智」の4つの「徳」を得られるという考え方。

① 惻隠（そくいん）：他者を見ていたたまれなく思う心。育てれば「仁」になる。

② 羞悪（しゆうお）：不正や悪を憎む心。育てれば「義」になる。

③ 辞讓（じじょう）：へりくだり、譲り合う心。育てれば「礼」になる。

④ 是非（ぜひ）：正しいことと間違っていることを判断する心。育てれば「智」になる。

孟子によれば、四端は人間が生まれ持つているものであり、これらを後天的に磨くことで、「徳」のある善良な人間になることができます。

◎性悪説 荀子は人間の欲望を抑えるには「礼」が重要である。礼には人間の関係を整理し、社会秩序を保つ役割。

荀子は礼を通じて人々の行動を規範化し、社会を安定させること知識と技能の修得が人間を善に導き、教育や学問を通じて、人々が自己を磨き、高い道徳性を持つことができる主張した。

善因善果、悪因悪果

「善因善果」は、善い行いが必ず善い結果をもたらすという仏教の教えです。これは、良い行いを積むことで幸せや成功を得られるという考え方を示しています。

「悪因悪果」は、悪い行いが悪い結果をもたらすことを意味します。これらの概念は、因果応報の法則に基づいており、行動が未来にどのように影響を与えるかを意識することが重要です

百丈野狐

修行によって輪廻や因果の支配を脱する、即ち「不落因果」（因果に落ちず）が修行の目的

不落因果・・・因果律にとらわれることはない・・・五百回野狐として生死を繰り返す。

因果は全てのものの在り方で「不昧因果」（因果を味まさず）因果を素直に受け取る後述の「深信因果」が修行の根本。不昧因果・・・因果律を曖昧（あいまい）にしない。礼を述べて野狐より脱したとその後、百丈禪師・野狐の葬式した。

（真心をもって周りの人々との関わりや事象を受け止めること）

一つには順現報受・・・行為をなした報いがその生涯の間に現われる

二つには順次生受・・・善悪の報いが来世に来る

三つには順後次受・・・善悪の報いが再来世あるいはそれ以後に来る

善悪業の報いが、来世もしくはその次に現れると言われてもピンときません。しかし、自分の子や孫の時代、次の世代に現れるとしたらどうだろうかという点、これはピンときたようでした。

道元禪師の受け取り方・・・今をどう生きるか。而今とは、心を込めて生きることが、心の安らぎの信仰生活となる。

「因円果満」大宇宙の縁によって真実を生かされているから、坐禅を行わずれば、本来の在り方に還る（滅三毒）という意味で、これを「仏因仏果」「妙因妙果」「因果不二」仏が仏の修行をするから仏である。「諸法実相」巻「因は果をまつ因にあらず、果は因にまたるる果にあらず」、即ち因の時分は因、果の時分は果で、各々が絶対であり、相対の因果ではない。

「因果不二」即ち「因と果は同じ」の道理であるから、「因果」ではなく「因果」と言えばよく、故に「因果」の「果」に徹することか、而今「じこん」「にこん」「そして」「すなわち」の意味。“今”は、いうまでもなく「過去とも未来とも言えない時」の事、すなわち、而今”の意味は、「過去の話や未来の不安はさておき、今に集中しよう」となる。

坂村真民先生の「あとから来る者のために」という詩

あとから来る者のために

田畑を耕し 種を用意しておくのだ 山を 川を 海を きれいにしておくのだ ああ あとから来る者のために  
苦勞をし 我慢をし みなそれぞれの力を傾けるのだ あとからあとから続いてくる あの可愛い者たちのために  
みなそれぞれ自分にできる なにかをしてゆくののだ 正壽寺住職 呉 定明合掌